

準一級

一枚め

文部科学省後援 書写技能審査

平成二十九年年度第三回毛筆書写技能検定 試験問題

平成三十年一月二十八日実施

〈実技問題〉

〈実技問題の用紙（一枚め）も提出すること。〉

第一問 つぎの漢字四字を、別紙（半紙一枚）に縦書きで楷書・行書・草書の三体で三行に書きなさい。

寒 月 梅 林

第二問 つぎのわく内の文を、別紙（半紙）を縦長にして四行又は五行に体裁よく書きなさい。

（漢字は行書で書くこと。仮名は連綿で書いてもよい。漢字・仮名は課題のとおりに書くこと。）

春の夜はしづかに更けぬ はゆま路の並木のけぶり
函馬車はわだちをとりて 宮津より由良へ急ぎぬ

（薄田泣筆）

第三問 つぎの文字は張猛龍碑の一部分です。これを別紙（半紙）を縦長にして二行に臨書しなさい。



（張老春秋）

受験番号などを書く形式例

（個人）
受験番号 → 0101M11001

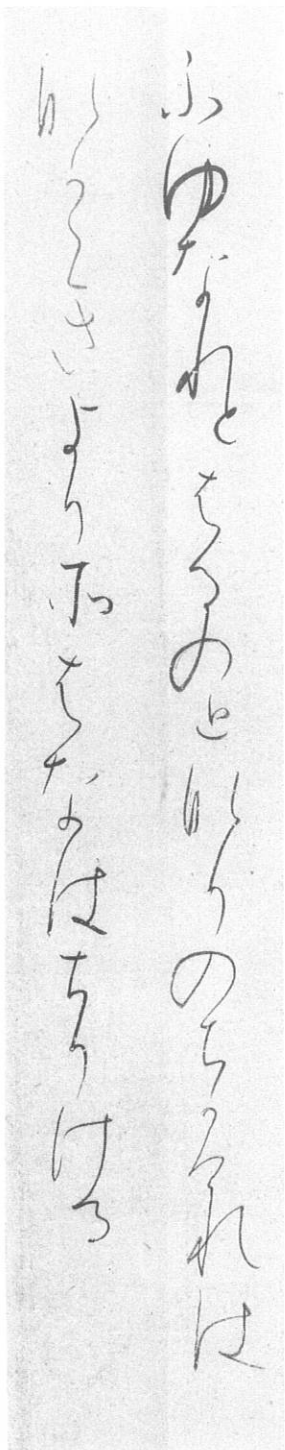
（団体）
試験会場名 → 西川高校
団体名 → 朝日KK
受験番号 → 12

（字もスペースも、この大きさで）

まず答案に受験番号などを書きなさい。

例示の形で

第四問 つぎの和歌は高野切第三種の一部分です。これを下の図のように別紙（半紙）を縦長にして、二つに折り、右半分に二行に臨書しなさい。（うつし書きをしなさい。）



ふゆなれどほるのとなりのちかければ なかゞきよりぞはなはちりける

←右半分に書く

折る

第五問

つぎの沢本さんから田中さん宛の、はがきの宛名書きを、別紙のはがき（三枚め）に縦書きで体裁よく書きなさい。
〈一枚のみ提出して下さい。〉鉛筆で線をひいたり、下書きをしてはいけません。郵便番号はボールペン・万年筆で書いてもよい。

997-0332 鶴岡市西荒屋字杉下一二八
田中 ゆりか 様
850-0058 長崎市尾上町
三―12―6
沢本 幸治

第六問

つぎのわく内の掲示文を、別紙（半紙）を縦長にして、縦書きで体裁よく書きなさい。
（漢字は楷書、または楷書に近い行書で書いてもよい。）

陶芸教室

日時 一月二十八日（日）

午後一時から四時まで

場所 大和文化センター

講師 青木尚円先生

費用 二、〇〇〇円

主催 東町陶芸愛好会

第七問

A つぎの草書で書かれた漢字を、常用漢字の字体（楷書）で下の□の中に書き入れなさい。

跡雪

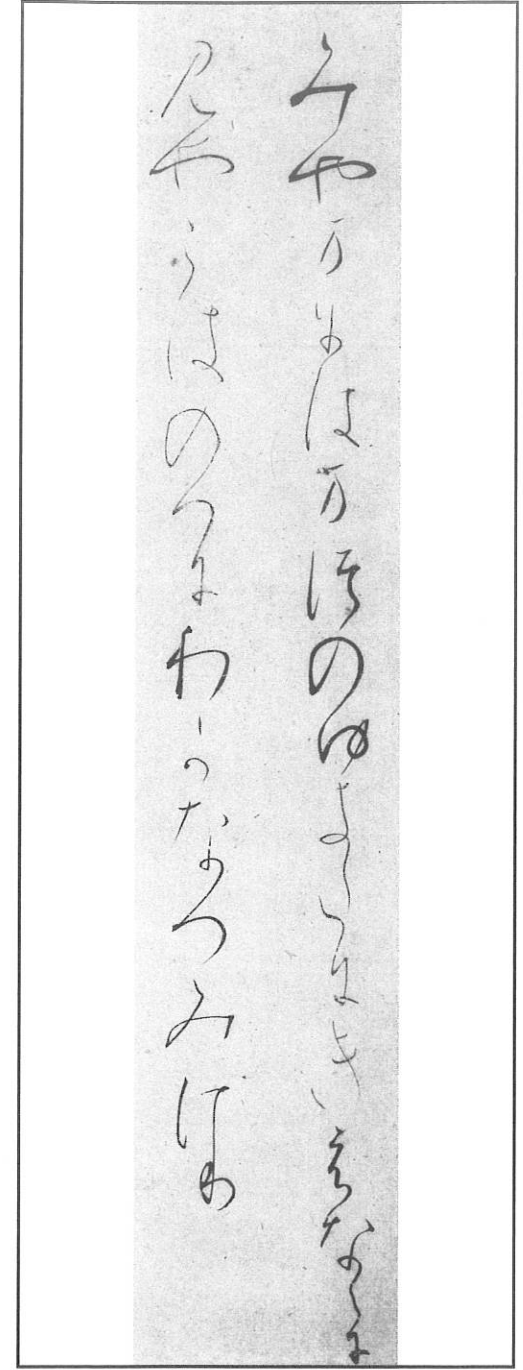
美術

紅梅

成功

由来

B つぎの高野切第一種について、全部の字を、平仮名で、外側に書き改めなさい。



試験会場名
団体名
受験番号

第七問から第十問までの合計点

 点

受験者名簿に転記

第七問
点

第八問

つぎの漢字のA列はいわゆる旧字体で、B列はいわゆる書写体です。これらの一〇字を、常用漢字の字体（楷書）で、下の□の中に書き入れなさい。

醫

團

傳

様

藝

遊

柳

圓

過

顔

第九問

A つぎの1から5までの文章で、正しいと思うものには○を、誤っていると思うものには×を、下の□の中に書き入れなさい。

- 1 高野切や寸松庵色紙は、三跡の一人、紀貫之が書いたと伝えられている。
- 2 顔氏家廟碑は、顔惟貞のために建てた廟なので、顔惟貞廟碑とも言われている。
- 3 十七帖は、王羲之の書いた十七通の手紙をまとめたので、十七帖と名がつけられた。
- 4 奈良時代、文章や和歌が漢字のみで表記された。この音のみ借りたものを万葉仮名という。
- 5 真草千字文は、智永の書で、真は真書（楷書）、草は草書で二つの書体で書かれている。

第九問
点

第十問

つぎに書かれた文の漢字について、常用漢字の字体から見て誤りまたは不適当な字があったら、その右に正しく書き改めなさい。全文を書き改めてはいけません。

成功の程度を測る尺度は、どんなに難しい問題を解決した

かではない。去年と同じ問題が今年も又持ち上がっていないかである。

第十問
点